

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（派遣）
研究交流報告書

報告日：2020年10月18日

派遣者所属名	人間発達環境学研究科
派遣者氏名	片桐恵子
<p>共同研究者はダブリンシティ大学のDr. Trudy Corriganであり、ダブリン滞在中はほぼ毎日打ち合わせを実施した。</p> <p>研究テーマは、生涯教育の国際比較研究である。これまでメールなどでやり取りしてきたが、今回はまずは日本とアイルランドの生涯学習の現状についての理解を深めた。具体的には、滞在期間中にちょうどダブリンシティ大学で取り組んでいるエイジフレンドリーの紹介イベントが行われる日があった。多くの教員が協力して、エイジングに関するさまざまなレクチャーを行い、シニアは興味のあるセミナーに参加し、今後一年の受講を決めるための日であった。Dr. Trudy Corriganの授業に参加し、日本の高齢者の生涯学習について簡単に講義を行った。日本の生涯学習の参加者が自己中心的なトピックに関心が高い（健康など）ダブリンのシニアの参加者はとても視野が広く感銘を受けた。</p> <p>なぜこのような違いがあるのか、またそのような広い視野の高齢者を育成するには、どうしたらいいのか、ということ議論した。共同研究では、アクションリサーチも考えており、このような議論はその内容について、考えるいい機会となった。</p> <p>共同研究実施に際しては、研究資金の調達が重要である。私の方で申請していた学振の国際共同研究加速基金Bはあいにく不採択であったが（10月に判明）、助成金について詳しい人に、Dr. Corriganとともに面談し、アイルランド側で申請可能な研究助成金の情報も入手し、現在どの助成金に申請するかなど検討しているところである。</p> <p>School of Policy & PracticeのHead of School Dr Elaine McDonald、その上部組織であるInstitute of Educationの Deputy Dean であるProf Pádraig Ó Duibhir とも議論の機会を持ち、生涯学習や大学の教育についての議論をした。そして、Institute of Educationで、日本の教育や学習についての講演を依頼され、Institute of Educationのfaculty staffを前に講義をした。その様子は録画され、後日DCUのwebsiteにアップされたとのことである。</p> <p>このように教育全般から生涯学習について、日本社会とアイルランドの現状について、実際の授業を含め理解をできたことは、研究計画のブラッシュアップにつながった。例えば、本年度の学振への申請では、研究の一部となるクショリサーチについて具体的な提案ができなかったが、その具体的なプランを検討することができた。一つにはダブリンで紹介された、演劇を通じて地域社会の文化の伝承と地域社会の再生を促すプロジェクトのリーダーとの面談を迂て、高齢者の果たすべき役割のロールモデルのアイデアを入手した。また孤立しがちな退職後男性が集うグループのリーダーにも会い、退職後問題を抱えることの多い男性に対しての交流の仕組みと地域貢献へのアイデアを得た。</p> <p>これらの実際の交流から得た貴重な知識と経験を経て、今後も日本側とアイルランド側の</p>	

双方で研究資金獲得に向けて努力していくことを約している。

また、研究自体を進めるため、Dr. Corriganとの共著で、オピニオンペーパーを執筆することを検討している。これは日本とアイルランドで生涯学習に関する現状をまとめ、その問題点と改善に向けての提案を行う、という内容にすることとした。まず両国の現状をまとめるということでお互いにデータ収集を行っている段階である。